令和元年度第3回袖ケ浦市郷土博物館協議会

- 1 開催日 令和2年3月3日(火)
- 2 開催場所 書面会議
- 3 出席委員

委員長	伊藤 誠	委 員	加藤 みどり
副委員長	武田 弘	委 員	岩﨑 照代
委 員	山﨑 剛	委 員	菊池 眞太郎
委 員	高橋 佳代子	委 員	篠原 美智代
委 員	佐藤 優子	委 員	唐木 義昭

4 傍聴定員と傍聴人数

傍聴定員	5人
傍聴人数	0人

5 議題

- (1) 令和元年度郷土博物館事業の成果と課題について
- (2) 令和2年度袖ケ浦市郷土博物館経営方針及び重点施策(案)並びに令和2年度事業計画(案)について
- (3) 博学連携新たな取り組みについて ~山野貝塚学習プログラム~
- (4) その他
- 6 議事 本会議については、新型コロナウィルス感染防止のため、予定していた会議を 中止し、書面会議にて開催することとした。

そのため、各議題に対して、委員から頂いた意見を取りまとめたものを提示し、会議報告とするものである。

議題(1)令和元年度郷土博物館事業の成果と課題について

伊藤委員長・入館者は台風の影響があったが、企画内容が良くトータル的には増加し

た。

- ・市民学芸員・友の会の皆様が企画し参加者が増加している。
- ・博物館ホームページは常時更新が望ましい。
- ・ミュージアム・フェスティバルは、内容も良く多くの皆様が参加して良かった。
- ・山野貝塚講演会は、参加者が理解していた。今後見学に力を入れてもらいたい。

事務局

今年度、多くの市民を対象にした山野貝塚の見学会は開催できなかった。 今年度から始めた『初歩から始める大人のための縄文講座』で見学会を行ったのみである。来年度は体制を整えて、周辺史跡や遺跡を含めた見学会を行っていきたい。

山野貝塚の発掘調査も行う予定なので、その時期に合わせて計画するの も良いと考えている。

生涯学習課でボランティア養成を行う計画となっているので、博物館も 協力していきたいと思っている。

岩﨑委員

- ・入館者数の減少については台風の影響が大きいと思いますので、ある意味仕方がないのではと思う。
- ・一年間の事業を一覧にしてみると、実に多種多様な取り組みをしている と感じる。小さな博物館としては、かなり負担が大きいのではないかと感 じる。いくつか重点事業を中心にすえて、再編していくのも一つの方法か と思う。

事務局

事業の見直しや再編については、課題として認識している。この先の博物館像を展望しながら、ふさわしい事業を取捨選択していきたいと考えている。

加藤委員

- ・今年度は台風15・19号に続き、新型コロナウィルス感染対策と閉館 や縮小をせざるをえない事が続き大変だったと思う。入館者数の減少約 2,000人(前年度比)。あと2ヵ月ですが減少となるでしょうね。
- ・博学連携事業の課題等にあるように「学校との連携が浅くなっている傾向」とある。「教育普及事業」に「袖ケ浦市教育研究会(以下市研)生活科研修」がありましたが、「社会科・理科等」他の部会もまきこんで、博物館

を知ってもらうことも大切。そこから連携ができていったらいいと思う。

唐木委員

・一年を通してかなりの事業を実施しているが、博物館としてそれぞれの 事業に対して見込みをもっていると思います。今季の事業の中で見込み通 りに行かなかった事業はありますか。もしあるなら、その事業に対して今 季はどう臨むのか、(対策、中止など)検討している事があれば示してほ しい。(もちろん、なければ素晴らしい事だと思う。)

事務局

来館人数については、台風の影響による休館が続いたため、前年度より 少ない結果になっているが、今年度実施した事業の成果は、ほぼ見込みど おりだったと考えている。博学連携事業についても目標値には達成してい る。しかしながら、その本質にある教員とのつながりが構築されていると は言えないので、その点を今後の課題とし、先々は市研などとのつながり をもち、学校との連携を深められるように取り組んでいきたい。いきなり は難しいので、できることから一つ一つ進めていきたい。

菊池委員

- ・多くの事業に取り組みご苦労様です。令和元年度は台風の影響で色いろと大変でした。
- ・課題の主な点は、調査研究不足、職員の負担が大きい、市民学芸員の高齢化等があげられているがこれは切実な課題かと思われる。職員・市民学芸員・友の会等の協力で行われている事業なので、その中のどれかが欠けても運営できなくなることを考えなければならない。

佐藤委員

・こうして一覧で見ると、とても充実した事業展開に頭が下がる。職員の 負担を減らせる方法(人員を増やす etc)を考えることも必要と考える。

事務局

職員の負担軽減については、当館に限らず本市全体の課題でもある。岩 崎委員の意見にもあったように、業務の見直しなども考えていきたい。

篠原委員

物流システムの活用については、学校職員の年齢層が若くなったり、他市からの職員の転入もあったりと、以前行われていたことも、なかなか伝わっていない部分があるかと思う。又、袖ケ浦市のシステムを知らない教員もいると思う。年度初めに、小学校側の担当者(社会科主任?)に物流システムの良さをアピールしたらどうかと思う。更に、3年と6年の体験プログラムの打ち合わせの時に、担任の先生や、担任の先生を通して、他の先生へ知らせてもらうとか、「物流システムアピール作戦」で今一度伝

えていくといいかなと思う。

武田委員

台風の影響による長期間停電したことに対して、今後もこのようなことが起こることも考えなくてはならない。大型発電機の対応も考えたい。例 えば太陽光発電システムなども取り入れる必要があるのではないか。

事務局

台風の際の停電時には、電話が使えず、外部との連絡手段がなくなった。 災害時の危機管理体制や本庁など外部との連携を図るには、何らかの手段 を講じなければならない。また、停電になった場合、収蔵庫の資料管理が 不能となってしまうので、課題であると捉えているが、停電時の電源確保 に対する対応については、すぐに解消できることではないので、ご意見と して承ります。

山﨑委員

- ・今年は災害に見舞われ大変な1年でした。修繕が完了したということで ほっとしましたが、それまでの職員の皆様のご苦労をお察いたします。本 当にご苦労様でした。
- ・1年を振り返り、中学校との連携が取れなかったことを深く反省しています。根形中学校には織物の出前授業をしていただき本当にありがとうございました。生徒もたいへん喜んでいましたし、地域の教育力の活用の必要性を感じました。

議案(2)令和2年度袖ケ浦市郷土博物館経営方針及び重点施策(案)並びに令和2年度事業計画(案)について

伊藤委員

- ・袖ケ浦学を年6回開催するが、チラシ等も作成し多くの皆様に参加してもらいたい。
- ・ミュージアム・フェスタは参加者も多く、若干内容を変えてみてはどうでしょうか。
- ・袖ケ浦公園・根形公民館との連携は具体的にどうするのですか。
- ・重点施設のホームページ最新による情報発信を。
- ・山野貝塚の調査はどうするのか。

事務局

袖ケ浦学のチラシについては、今年度から極力作成するように努力している。市政協力員を通じて回覧してもらうなど市民に周知していきたい。 ミュージアム・フェスティバルでは、長年実施している催し物は、新た な内容のものに変えることも検討している。昨年度は、地元の農産物の販売をしたが、好評なので地元と連携した取り組みなども深めていきたい。

袖ケ浦公園との連携は、事業の際に研修室を貸すなどの事業支援を行ってきたのみである。それぞれ得意な分野があると思うので、両者を融合し、 共同で袖ケ浦公園を題材とした事業を実施するなどすると良いかもしれないが、今後の課題としたい。

ホームページによる情報発信については、会議資料に掲載できなかった ため、情報提示不足であったが、来年度から新たなホームページへ移行す る予定である。新たなホームページでは情報発信用のページを充実させる などしていきたい。

山野貝塚は今年度から公有地化が始まり、全体の約3割弱を購入することができた。来年度は公有地化した箇所を中心として、遺跡の内容を把握することを目的とした調査や、貝層の様子を確認する調査を進めていきたい。

武田委員

前年度のミュージアム・フェスティバルに地元の人の野菜販売をして頂いた。なかなか好評で出品して頂いたものは数時間のうちに完売した。来年はもう少し多くの出品を地元の人にお願いし、関心を高め参加をお願いしたい。

岩﨑委員

- ・山野貝塚について広く市民に知っていただけるような企画があると嬉しい。
- ・国指定になってから時間が空いてしまうと一般の人々の熱もさめてしま うと思うので、展示に工夫をしたり、アウトリーチで取り上げたりできる と良いのではと思う。

事務局

・来年度には、引き続き教育委員会の方で講演会を実施する予定である。 ただし、内容も難しいため、だれもが参加しやすい企画も必要と考える。 その辺は博物館の役割が大きいと考えるが、生涯学習課と協力体制を整え ながら取り組んでいきたい。

なお、今年度末に小学生向けの山野貝塚のパンフレットを作成するので、 博物館でも活用してみたい。

加藤委員

・企画展が楽しみ。身近な感じがします。

・市民学芸員の新規募集がうまくいくと良いと思う。市民学芸員の高齢化 が続く中、「新しい風がふく」と良いと思った。

唐木委員

・調査研究の中に、「民俗・祭祀に関する調査」がある。市内にある昔からの風習を掘り起こす事、それを伝えていく事は、とても大切な事だと思う。できれば調査研究だけではなく、博物館もかかわってもらい、地域とつながりをもって欲しいと思う。さらに調査した結果を博物館の事業として、一般の人々にも公開して欲しいと思う。

事務局

委員のおっしゃる通り、市内に伝わる風習を伝えることは大事なことと認識している。そこで博物館法に規定されている博物館の業務である調査を学芸員が個人研究として行います。個人研究ですが、これは博物館の業務であって、その成果については企画展等で公開し、市民にその情報を還元していきます。

菊池委員

・博学連携事業で中学校との連携が新たな取り組みとしてあげられているが、中学校に「郷土研究部」「考古学研究部」等があれば、また、近隣の 高等学校等にあれば連携を図ってみては如何でしょうか。

事務局

現在のところ、市内中学校のクラブ活動に郷土を学ぶ活動はありません。 高校に関しても同じですが、そういったことに関心がある教員がいること によって、部活動が始まる可能性もある。

佐藤委員

- ・出前講座は、とても市民の方に喜ばれると思うので、ぜひ続けて欲しい。
- ・来館のきっかけにもなると思うので、そのためにも、市民学芸員を増やせたらいいですね。

篠原委員

企画展「ごはんの作り方」(仮称)は「お米の作り方?」「ごはんの炊き方?」ということでしょうか。

事務局

ごはんを作るというよりは、お米を通した、袖ケ浦と民俗行事に関する 内容で展示を行う予定。名称についてはもう少し検討する。

山﨑委員

袖ケ浦市の教育目標「明日を拓く、心豊かなたくましい人づくり」の達成に向け、また地域の特性を踏まえた教育力の活用等、郷土博物館の活動は必要不可欠なものである。そして、その必要性を満たす十分な活動内容である。来年は校長会として少しでも広報活動に協力できるように努めます。

議題(3) 博学連携新たな取り組みについて

~山野貝塚学習プログラム~

- 伊藤委員
- ・山野貝塚の校外学習はとても良いと思う。保護者も今後見学してもらえば更に広がると思う。
- ・ワークシートは重要だと思う。早くに取り組んでもらいたい。
- 岩﨑委員

議題(2)の意見に関連していると思いますが、まずは子どもたちへア プローチすることは良い取り組みだと思う。ただ、今の状態の山野貝塚で は、なかなか興味を引くには弱いかと思うので、解説や図説などを充実し ていただけたらと感じます。

加藤委員

中学校体験学習をもとに、中学校現場で「総合的な学習」や「歴史」の 授業に組みこんでもらえたら、袖ケ浦の子供(生徒)達にとってとてもい いと思う。「総合的な学習」から研究~発表へと発展していったら、山野 貝塚の学習が深まり、個人の力も伸びていくと期待します。

唐木委員

山野貝塚を広く知ってもらう為に、中学校の生徒を引き込む事は、いい 事だと思う。今はあらゆる層にアプローチして広げていく事が重要だと思 う。

将来、学校の中に生徒達が、山野貝塚を守っていこう等のようなサークルが誕生すれば素晴らしい事だと思いますし、博物館としても協力していくべきだと思う。

菊池委員

- ・中学校に対しての新たな取り組みは、必要であり積極的に進めるべきであると考える。しかし、山野貝塚学習プログラムと内容を決めての取り組みに対しては、事前にアンケートをとり、意見を聴取してから実施されるようですが、学校側はとまどうのではないかと思われる。
- ・学校側の希望と博物館の課題が一致すれば良いのですが。
- ・『そではくの使い方』等があまり使われていない状況では、もう少し打ち 合わせが必要ではないかと思う。

その方法については、

1. 毎年、教員を対象とした研修会を開き、どのような学習の中で博物館を利用できるかを検討し、それを活かす。

2. 博物館に教員を配置する。

これまでの経験から、学芸員と教員の考え方は全く違うので、学芸員だけでのプログラム作成は限界があり、教育・普及に関しては教員の力を借りることが必要である。

事務局

まずは内容を決める前の段階として、実施が可能かどうかや可能であればアウトリーチ型、博物館での実施型が良いのかといった内容のアンケートとしており、できるだけ現段階では学校への負担など、与えないように配慮した。

具体的な学習プログラム内容については、これから検討するところである。また、『そではくの使い方』については、年度当初の校長会議や教頭会議の際に利用説明を行っているが、市研などの担当教員がいるような場で説明できればと思う。

佐藤委員

小学校3年生に対しての取り組みは、特に好奇心が強いので、素晴らしいと思う。まんが(又はアニメーション)で、紹介する冊子を作るなどの試みも効果的と思う。

事務局

議題(1)でもお答えしたが、小学生向けのパンフレットを今年度刊行することとなっている。マンガ仕立てにはなっていないが、イラストを多用した仕上がりとなっている。多少なりとも小学生の興味を引くように作成したので、来年度は積極的に活用したい。

篠原委員

6年生と中学生の内容の違いがよくわからない。

事務局

先々、この学習プログラムの導入について、博物館協議会の中で掘り下 げてきたので、小学校3年生、6年生、中学生の学習指導要領について、 提示できればと思う。

髙橋委員

- ・中学校を卒業すると、それぞれの進路に向かい、郷土から遠ざかり郷土 の歴史や文化が薄らぐのではと思う。
- ・博物館と学校との連携して行く方向性に、それぞれの立場から協力して行きたい。

武田委員

事業計画が年々多くなっているように思う。大変よいことと思うが少ない職員での対応が難しくなってくる。今後、山野貝塚の問題もありボランティア活動など、早めに手を打つ必要があるのではないか。

事務局

山野貝塚のボランティアについては、生涯学習課で検討することとなっているが、博物館でもボランティアを育成しているので、いずれは整理し、 一体化するなどしなければならないと考える。

山﨑委員

袖ケ浦市には素晴らしい国史跡があり、市民(生徒)がそのことを理解することは大切なことです。しかし、社会は授業内容が多く授業の一環となると、時期の工夫や教科内容とのタイアップが必要かと思う。

議題(4)その他

高橋委員

この先、事業を実施して行く中で、文化協会として協力できることがあれば協働で進めましょう。

唐木委員

・旧進藤家住宅について

現在、一般公開の他に、イベントなどで使われていますが、どちらかというと(動)の使い方が多い気がします。(静)としての使い方を考えてみてはどうでしょうか。例として挙げる項目は私の単純な発想なので、こういう傾向でと、とらえてください。図書館などでお話会など実施されていますが、たとえば民話、怪談を聞く会、あるいは現在、博物館の研修室で実施されている袖ケ浦学を、テーマによっては開催をする。聞く場所が変われば、参加者も違った成果があるのではないかと思います。

事務局

旧進藤家住宅の活用面については、過去の博物館協議会で審議いただい たことがあるが、最近では市民学芸員により活用いただくなど、新たな取 り組みもあるので、委員のご意見も踏まえ改めて検討してみたいと考える。

以上

令和元年度第3回袖ケ浦市郷土博物館協議会

会議次第

日 時 令和2年3月3日(火) 午後2時から 場 所 郷土博物館 研修室

- 1 開 会
- 2 委員長あいさつ
- 3 教育長あいさつ
- 4 議 題
 - (1) 令和元年度郷土博物館事業の成果と課題について
 - (2) 令和2年度袖ケ浦市郷土博物館経営方針及び重点施策(案)並びに令和2年度事業計画(案)について
 - (3) 博学連携新たな取り組みについて ~山野貝塚学習プログラム~
 - (4) その他
- 5 閉 会

(2/19現在)

No.	事業名	事業概要と主な取り組み	時期・回数	(2/19現在) 参加対象者・ 人数・佐数等
-			2月19日現在	人数・件数等 E入館者数
		★常設展 本館では、映像・歴史・民俗・昭和のくらし・上総掘り・国史跡山野貝塚各 部屋の展示及び情報提供によって、袖ケ浦市のくらしの移り変わりなどを理解	()内は平成31	年2月29日の実績 26,793人
		しやすいものとした。 アクアラインなるほど館・旧進藤家住宅・万葉植物園等の屋外展示施設の有	本 館	(31, 426人) 10, 022力
		対活用を図っている。 また、市民の知的要求に応え、リピーターの確保に努めるため、企画展・ロ ビー展等を行い、常設展では、歴史展示室の近代コーナーの展示替えを行っ	なるほど館	(11, 631人) 12, 478 <i>)</i>
		た。	旧進藤家住宅	(9,787人)
		※本館の入館者は、前年度比で若干減少している。特に9月は台風15号・19号の影響により、前年度比で約2,000人も減少した。旧進藤家住宅は改修工事により閉館していたため、大幅に増加する結果となった。	승 카	49, 293 <i>)</i> (47, 821人)
		●事業目標 本館常設展入館者数 32,500人以上	実績値	26, 793 <i>)</i>
		★企画展		
		企画展 I 『袖ケ浦の水辺-人と生き物のくらし-』	5月1日~9月1日	11, 170
		企画展Ⅱ『幕末維新の西上総-おらがの慶応4年-』	10月5日~12月15日	6, 265)
		企画展Ⅲ『eco生活事始め-考古資料から見た上手な資源の使い方-』	1月11日~3月1日	3, 254)
		●事業目標 企画展・特別展入館者数 21,000人以上	実績値	20, 689)
	展示更新推進 事業	★アクアラインなるほど館ロビー展		
1		『袖ケ浦ナイススポット再発見!』市民学芸員(平成30年度継続事業 3/23~4/14 1,597人	4月1日~4月14日	850)
		『根形公民館成人絵画教室生徒作品展』	4月26日~6月9日	2, 690)
		『万葉集、花と樹の歌~市民学芸員・瀧良子植物画の世界~』	6月22日~7月15日	608
		『危険生物!海のならずもの展』	7月20日~9月29日	2,061
		『幕末写真館-激動の時代を生きた人びと-』	10月5日~10月31日	732)
		『盆栽展』博物館友の会 盆栽愛好会	11月2日~11月4日	423)
		『植物画展 ソデフローラVII』市民学芸員葉月の会	11月19日~12月15日	771)
		『にっぽんの郷土凧』博物館友の会 凧の会	1月8日~2月2日	834)
		『展示模型解説 永吉台遺跡群編-平安時代の〇〇村』	2月8日~3月15日	R2. 2. 19現在 434ノ
		市民学芸員郷土を学ぶ会主催 写真展 『馬乗り馬頭観音ーわがまちにもー』 (令和2年度継続事業 3/20~5/10)	3月20日~3月31日	
		●事業目標 アクアラインなるほど館等 ロビー展示展開催 年6回以上	実績値	10回
		■課題等 企画展やロビー展を定期的に開催することにより、入館者は増加するが、調査研究不足や職員への負担が大きい。業務展示に向けた調査研究に対する時間が少ない。		
		台風の影響により、旧進藤家住宅、万葉植物園、古代復元住居に被害が発生 したが、災害復旧事業として対応し、修繕等は終了した。		
		館蔵資料(古文書等)の台帳作成及び整理や閲覧対応(デジタル公図を含む)を行っている。また、収蔵環境の整備にも努め、今年度は12月に特別休館日を		
		設け、収蔵庫の資料整理を行った。博物館の収集・収蔵資料を整理・情報化し、利用者に提供するとともに、博物館活動を広くPRするためホームページを活用しこまめな更新による情報発信を行っている。『袖ケ浦市史研究』第20号	通年	
		の原稿を募集した。 ●事業目標 館蔵史料の保存・修復を行う。		1件(奈良輪漁港資料:37点)
	地域資料管理活	収蔵庫の資料整理と活用しやすい状況の維持	実績値	12月の特別休館日
2	用事業	博物館ホームページによる情報発信		により実施 HPアクセス数 18,943件
		■課題等		(今和9年9日10
		収蔵庫2の空調機器でカビが発生したため、応急的な対応を施したが、適切な対応について検討しなければならない。収蔵庫2の室内が酸性環境にあるため、対応が必要である。 今年度は台風の影響により、長期間停電したことから、収蔵庫の室内環境に影響が生じたが、早目の対応により、大きな被害には発展しなかった。		
		博物館が学校と連携し、学校教育の中で、博物館の施設や資料を活用することで、子どもたちの経験値向上と郷土愛の育成を図る。体験学習等への市民学芸員(ボランティア)の参加により、大人も子供も育つ世代間交流の場としても機能している。		()内は 平成30年度実績

		校外学習支援 (●事業目標 年15校)		18校1, 383人 (18校1, 344人)
		アウトリーチ活動(●出前展示・出前授業) (事業目標 年3件)	-	3件176人 (6件457人)
		学習相談	-	6件 (7件)
		職場体験(市内中学2年生)	通 年	2校5人 (2校4人)
3	博学連携事業	実物資料貸し出し (●事業目標 年6件)	-	
		図書貸し出し(物流システム利用、ビデオも含む)	-	1件4点(2件14冊)
		博物館実習生受入		6校6人 (2校2人)
		■課題等 小学校3年生と6年生の体験学習はプログラム内容が充実し、市外からの体験要望も多い。しかしながら、中学校との連携があまり図れていないので、山野貝塚の学習プログラムなどの活用を検討している。 物流システムの利用が活性化していない。引き続き利用促進について検討する。学校への資料や図書の貸し出しも減少しており、学校との連携が浅くなっている傾向が窺える。		
4	調査研究事業	地域の歴史に関する資料の収集・保存等の調査や企画展に関する調査を行うとともに、学芸員の個別調査研究を進めた。 ・山野貝塚に関する調査 ・中世荘園に関する調査 ・民俗・祭祀に関する調査 ・袖ケ浦市内の生物に関する調査 ほか	通年	
		■課題等 職員の多忙化により、調査研究のための時間の確保が難しい。		
		地域に根ざした博物館活動、市民の学習意欲に応えられる博物館活動の一環 として、各種講習・講座の充実を図るとともにミュージアム・フェスティバル 等の普及活動にも積極的に取り組みました。		()内は 平成30年度実績
		★博物館講座「袖ケ浦学」 講座として6回開催。歴史・民俗分野を主としながらも、多角的に「袖ケ浦」 に迫る講座内容とした。	年6回	一般
		(152回) 友の会共催『近世江戸湾における海上交通について』(講師 山本 光正氏)	4月28日(日)	34人
		(153回)『小櫃川の河口に生きる生物たち』(講師 大島 健夫氏)	7月14日(日)	雨天中止
		(154回)『日本の茅葺、世界の茅葺 -その多様性と技術-』(講師 日塔 和彦氏)	12月15日(日) (9月21日(土)	28人台風の影響により順延
		(155回) 『西上総戊辰戦争サミット「語り継ごう戊辰戦争、その時の西上総」』 (講師 實方裕介氏、宮本 敬一氏、河野 十四生氏、高橋 覚氏)	11月20日(日)	69人
		(156回)『カマド構造と移民集落』 (講師 栗田 則久氏)	2月10日(日)	17人
		★ミュージアム・フェスティバル 6月1日(土)・2日(日)の両日にわたり、世代を越えた市民各層のふれあいの場とするため、各種教育普及関連事業を行い、ミュージアム・フェスティバルを開催しました。 ミュージアムコンサート・貝輪づくり・アンギン織り体験・古代の匠に挑戦・上総掘り体験等各種イベントを開催し、友の会展示コーナー・模擬店なども運営し、袖ケ浦高の吹奏楽部、木更津高のジャグリング部の出演などにより	6月1日(土) ~6月2日(日)	3,749人 (4,198人)
		盛り上がりました。 ★自然と歴史の散策会	<u> </u>	<u> </u>
		県内外の史跡・博物館等を見学し、歴史に親しむとともに市民の交流の場と して、事業を展開している。	年2回	
		第1回 浜離宮恩賜庭園	6月15日(土)	31人
		第2回 埼玉県立さきたま史跡の博物館 ほか	11月27日(火)	37人
		★フィールド・アドベンチャー 次代を担う子供たちに、ふるさと袖ケ浦の自然を通して自然の一部である私 たちの存在を認識し、未来を考える機会を提供している。	年3回	青少年~一般
		第1回 しいのもりホタル観察会 ~環境保全の取り組みを学ぼう!~ (講師:椎の森里山会会員)	6月16日(日)	24人
		第2回 自然観察会 ~谷津田の生き物を見てみよう!~ (講師:上総自然学校職員)	6月22日(土)	13人
		第3回 冬の野鳥観察会 ~上池の鳥たち~ (講師:大島 健夫氏)	2月23日(日)	■人
		★博図公連携事業等(公民館・博物館での出前講座等のアウトリーチ)	通年	
		木更津市郷土博物館金のすず友の会記念講演「望陀布と古代の紡織」	4月14日(日)	35人
		袖ケ浦市民会館 子どもチャレンジ教室「企画展解説、博物館バックヤードツ アー」	5月19日(日)	13人
		市研生活科研修「企画展解説、生活体験学習体験」	6月20日(木)	29人
		袖ケ浦市民会館 高齢者学級「昭和地区まちあるき」	5月28日(火)	81人
		夏休み調べ学習相談会(中央図書館)「歴史・郷土」	7月25日(木)	6人
		千葉県文化財保護協会第2回文化財講演会「国指定史跡山野貝塚の特性について」 て」	8月31日(土)	114人

	根形公民館第3回地域再発見講座「移動教室及びミニ講和in朝比奈切通し」	8月31日(火)	23人
	退職校長会研修会「昭和地区周辺散策会	9月26日(木)	9人
	袖ケ浦市民会館 さわやかセミナー働きざかりの男塾「発見!袖ケ浦 袖ケ浦 市の歴史を知ろう〜過去から未来まで〜」	9月28日(土)	12人
	千葉市科学館 海の学びシンポジウム「山野貝塚と海のかかわりについて」	2月11日(火)	36人
	スマイリーキッズ生活体験学習会	2月11日(火)	16人
	★その他各種普及事業 市民学芸員や博物館友の会のワークショップや単発的な各種講座等を開催している。	通年	
教育普及事業	かずさの国 凧あげフェスタ (海浜公園)	5月4日(土・祝)	900人
	こどもの日イベント 「市民学芸員と遊ぼう!」(市民学芸員主催)	5月5日(日・祝)	362人
	企画展『袖ケ浦の水辺~人と生き物のくらし~』関連イベント 展示解説会 (第1回)	5月19日(日)	30人
	企画展『袖ケ浦の水辺~人と生き物のくらし~』関連イベント 展示解説会 (第2回)	6月8日(土)	11人
	企画展『袖ケ浦の水辺~人と生き物のくらし~』関連イベント 展示解説会 (第3回)	7月20日(土)	18人
	1日ジュニア学芸員体験 上池には何が住む??	8月3日(土)	11人
	企画展Ⅱ 『幕末維新の西上総−おらがの慶応4年−』 関連イベント 展示解説会(第1回)	10月5日(土)	25人
	初歩から始める大人のための縄文講座 ~縄文時代を知ろう!~ 第1回 テーマ:縄文時代はどんな時代	10月19日(土)	11人
	初歩から始める大人のための縄文講座 ~縄文時代を知ろう!~ 第2回 山 野貝塚とそでがうらの縄文時代	11月9日(土)	15人
	企画展Ⅱ 『幕末維新の西上総ーおらがの慶応4年ー』 関連イベント 展示解説会(第2回)	11月16日(土)	28人
	企画展Ⅱ 『幕末維新の西上総一おらがの慶応4年-』 関連イベント 移動 講座①幕末さんぽ 江戸編	11月24日(日)	43人
	アクアラインなるほど館ロビー展『ソデフローラVI』関連イベント植物画体験 講座 「植物画を描こう」(市民学芸員:葉月の会主催)	11月30日(土)	9人
	市民学芸員によるお飾り作り体験会	12月21日(土)	21人
	新春凧揚げ会	1月11日(土)	42人
	初歩から始める大人のための縄文講座 ~縄文時代を知ろう!~ 第3回 市内の縄文遺跡を歩く)	1月19日(日)	14人
	企画展III 『令和元年度出土遺物公開事業 eco生活事始めー考古資料から見た 上手な資源の使い方ー』 関連イベント 展示解説会(第1回)	1月26日(日)	34人
	ミニ和凧づくり教室	2月1日(土)	28人
	企画展Ⅲ 『令和元年度出土遺物公開事業 eco生活事始めー考古資料から見た上手な資源の使い方ー』 関連講演会	2月8日(土)	174人
	企画展Ⅲ 『令和元年度出土遺物公開事業 eco生活事始め -考古資料から見た上手な資源の使い方-』 関連イベント 展示解説会(第2回)	2月16日(日)	13人
	初歩から始める大人のための縄文講座 〜縄文時代を知ろう!〜 第4回 山 野貝塚講演会へ参加	2月22日(土)	■人
	令和元年度 山野貝塚講演会 周辺地域の遺跡から山野貝塚の特徴を探る	2月22日(土)	■人
	企画展Ⅲ 『令和元年度出土遺物公開事業 eco生活事始め -考古資料から見た上手な資源の使い方-』 関連イベント 展示解説会(第3回)	2月29日(土)	■人
	初生から始める土人のための縄立港座 。縄立時代も知るらし。 第5回 拓	3月7日(土)	■人
	友の会古文書いろはの会・何でもあり会合同企画 「房総幕末さんぽ」	3月10日(水)	■人
	市民学芸員自主企画 写真展「馬に乗った観音様ーわがまちにもー」関連イベント ギャラリートーク	3月20日(金・祝)	■人
	市民学芸員自主企画 写真展「馬に乗った観音様 - わがまちにも - 」関連講座 「西上総の馬頭観音」講師 稲木 章宏氏 (木更津市教育委員) 会)	3月29日 (日)	■人
	★友の会活動への支援 7グループ(凧の会・土器作りの会・仏像を学ぶ会・何でも有り会、古文書い ろはの会、機織りの会、盆栽愛好会)が自主的に活動している。 会報46・47号を発行。	通年	会員69人
	自主活動のほかに館との共催でロビー展示・自然と歴史の散策会を実施している。ミュージアム・フェスティバルにも積極的に協力した。		
	★上総掘り技術伝承研究会の活動支援 博物館敷地内の足場で掘削、樋挿入のための樋づくり、竹ヒゴづくりなど実施。ミュージアム・フェスティバルに参加した。	通年 (毎週土曜日、もしく は日曜日活動)	会員15人
	●事業目標 協働事業の実施回数 (年5回以上)	実績値	5回
	■課題等 市民学芸員や博物館友の会の協力により、様々な普及活動を実施することができた。今年度に夏休みに実施した「1日ジュニア学芸員体験」のような夏休み対応事業を充実する必要がある。		

		きめ細かな博物館活動(サービス)の展開を目指し、ボランティア活動による新たな学びの場を提供するとともに、市民相互交流を促すことを目的として活動を展開している。 自主企画展の企画・運営、ミュージアム・フェスティバル、博学連携事業、 万葉植物園手入れ、資料管理支援等で活躍している。 博物館では、新たな事業展開と意識向上のため、育成講座の開催とフォロー アップ研修を行った。	通年	34人
		市民学芸員養成講座 (博物館実習と合同)	7月30日(火) ~8月9日 (金)	4人
		市民学芸員フォローアップ研修①	7月10日(水)	23人
6	市民学芸員協働 事業	市民学芸員フォローアップ研修②	10月9日(水)	16人
	***	市民学芸員移動研修①	12月1日(日)	17人
		市民学芸員移動研修②	3月24日(火)	
		年末館内整理	12月17日(火) ~12月 24日(火)	7人
		ひな人形展示 (展示作業)		
		■課題 市民学芸員の高齢化が進んたことと、新たな人材が確保が難しい。事業へ参加する人員が固定化されてきた。		
		昨年度に実施した郷土博物館改修計画策定を受けて、今年度は事務室、1階 研修室、体験学習室、ロビーの空調機器の改修を行った。	通年	
	郷十博物館改修			
7	郷土博物館改修 工事	●課題 大規模改修費用の確保が難しいため、緊急性の高い不具合箇所から徐々に工事を進めていく必要ある。		
7	柳工博物館以修	■課題 大規模改修費用の確保が難しいため、緊急性の高い不具合箇所から徐々に工	通年	

議題(2) 令和2年度袖ケ浦市郷土博物館経営方針及び重点施策(案) 並びに令和2年度事業計画(案)について

令和2年度袖ケ浦市郷土博物館経営方針及び重点施策(案)

1. 経営方針

第2期教育ビジョンの目標である「明日を拓く 心豊かな たくましい 人づくり」の 実現に向け、学校・家庭・地域の連携強化による地域の教育力の向上を図るとともに、郷 土の歴史と文化の保存・継承に努めます。

そのため、郷土博物館は、平成24年度に策定した「袖ケ浦市郷土博物館の使命」を重点施策とし、国史跡・山野貝塚をはじめ、市内の文化遺産(地域資料)についての調査研究活動及び収集・保管・展示を行い、市の歴史を探ります。

また、市民学芸員・友の会等との協働により教育普及事業・博学連携事業のさらなる充実を図り、市民や学校への学習支援を行い、市民活動の場、知的交流の場としての利用を促進して参ります。

そして、多くの来館者が安心・安全に利用していただけるように、施設を適切に管理します。

2. 重点施策

(1)地域の文化的な個性を探り、継承し、その発信拠点となります。

博物館活動の原点である地域における調査研究と地域資料の収集・保存・管理に努め、 市民の共有財産として次世代に継承します。

また、地域資料の調査研究の成果を各事業の開催により市民と共有します。

さらに、ホームページ・新聞等を活用して博物館活動を広く PR し博物館利用の促進を図ります。

調査研究

- ・山野貝塚に関する調査
- ・袖ケ浦市内の生物に関する調査
- 中世荘園に関する調査
- ・民俗・祭祀に関する調査 等

地域資料管理活用事業の展開

- 地域資料の調査収集及び活用
- 収蔵保管資料の適正な管理
- ・ 収蔵資料の修復委託 (奈良輪漁業組合資料)
- ホームページによる情報発信
- ・古文書等表題データベース作成
- ・『袖ケ浦市史研究』第20号刊行

(2)市民の学習の場・知的交流の場となって、地域文化の向上に貢献します。

市民の学習や知的交流の場となるように、市民のニーズに応じた常設展示の部分的な更新をはかるとともに、企画展や特別展を計画的に開催します。また、市民が自らの意志で参画できるような展示を企画するとともに、地域の学習能力や地域文化の向上に貢献します。

また、博学連携事業の更なる充実を図るとともに、身近な学びの場として子どもたちが日常的に活用できるように博物館活動の周知に努めます。

さらに、市民の博物館活動の参画を促すために、市民学芸員や友の会の活動を支援するとともに、新たな人材の発掘と育成を図り、市民と共に歩む博物館活動の充実に努めます。 また、市内外の各種団体との連携により地域の魅力発信に努め、地域文化の向上に貢献します。

①展示更新推進事業の展開

- ・企画展3回(事業の目標値 入館者数21,000人以上)
 - i 企画展 I 「ごはんの作り方」(仮称)
 - ii 企画展 II 「海の民ーはるか縄文時代からー」(仮称)
 - iii 企画展Ⅲ「中島敏明展」(仮称)
- ・常設展示の部分更新(近世)
- 旧進藤家住宅での各種展示
- アクアラインなるほど館での各種展示
- 展示施設の活用を充実するためのワークショップ(体験型講座)の開催

②教育普及事業の推進 (事業の目標値:協働事業の実施回数 年5回)

- ・川野貝塚関連事業の開催
- ・ 友の会、市民学芸員、上総掘り技術伝承研究会との協働によるミュージム・フェス ティバルの開催
- 博物館講座「袖ケ浦学」の開催
- 友の会との共催による自然と歴史の散策会

③博学連携事業の拡充

- ・校外学習支援(市内・市外)(事業の目標値 年15件)
- ・資料の貸出(事業の目標値 年6件)
- 学習相談
- 教員対象研修の実施
- 学校向けワークシートの作成
- ・アウトリーチ活動(出前講座・出前授業・現場出張)(事業の目標値:アウトリーチ 実施回数 年3件)
- 山野貝塚体験型プログラム作成(中学牛版)

④みんなにやさしい事業の推進

- 高齢者施設との連携(博福連携:博物館と福祉施設等の連携)
- 多言語対応の推進
- ・ハンズオン(実際に手を触れるなどの体験学習)の充実

⑤市民学芸員の養成と支援

- 市民学芸員の新規募集
- 市民学芸員養成講座及びフォローアップ研修の実施
- ・市民学芸員主催イベント(子どもの日イベントなど)への支援
- 市民学芸員『どんぐりの会』会報(どんぐり便り)の発行
- ・地域史掘り起こし研究への支援
- グループ活動の支援

⑥上総掘り技術伝承研究会活動の支援

- 活動場所の確保
- 資材調達
- 活動 PR
- 補助金による活動援助

⑦郷土博物館友の会活動の支援

- 『友の会だより 48・49 号』の発行
- ・友の会各グループ活動(凧の会・何でも有り会・仏像を学ぶ会・土器作りの会、古文書いろはの会、機織りの会、盆栽愛好会)への支援
- ・友の会グループ主催イベント(新春凧揚げ会、盆栽展示など)への支援
- ・凧の会が参加する「かずさの国 凧あげフェスタ」への協力

⑧幼児期からの博物館体験

そではくのもり(市民サロン)での親子での体験活動

(3)市民の生涯学習拠点としての安全・安心な施設を提供します。

市民の快適な学習環境を整えるために管理施設の安全状況を把握し、安心・安全な施設を維持します。また、不具合が生じた箇所については、修繕等を行い、施設を維持管理していきます。

施設管理事業

- 安全点検の実施(月1回)
- 避難訓練、消火訓練及び救急訓練の実施
- I PM(日常的に収蔵環境を管理し、カビや病害虫の発生を抑えること:総合的病害虫管理)の理念に基づいた展示、収蔵環境管理の実践
- 日常的な施設の維持管理及び修繕による安全確保
- 施設の老朽化に伴う改修工事等の実施

非常用照明設備交換工事

郷土博物館サブ変電設備更新工事

(4)博物館としての独自性を追求します。

学校・他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流・連携をより強化するとともに、袖ケ浦公園・周辺の遺跡・歴史遺産を活用し、博物館と市民が融合した魅力的な博物館活動を継続します。

① 周辺施設との連携

- ・公民館、図書館等社会教育機関でのアウトリーチ活動(出前講座・展示・現場出張サービス)
- ・袖ケ浦公園・根形公民館との連携を強化し、事業の相乗効果をはかる。
- 千葉県博図公連携事業への協力(企画展 II 「海の民ーはるか縄文時代からー」(仮称)の実施)

②郷土博物館実習生の受入

・学芸資格取得を目指す学生に対して、博物館法施行規則第1条に定める「博物館実習」の機会を提供し、後進の育成を行う。

③各博物館協会協議会等への参加

• 日本博物館協会、関東博物館協会、千葉県博物館協会、君津地方公立博物館連絡協議会へ参加し、各種団体及び機関との事業連携を図ります。

④博物館周辺の景観整備

- 緑地管理
- 万葉植物園等屋外附属施設管理
- ・ 公園管理組合との共通認識をもった管理

⑤国県等の博物館施策及び文化財保護行政の動向把握

• 文化財保護法や文化芸術基本法の改正に基づく国県等の動向並びにこれからの博物館制度の動きを把握する。

議題(3) 博学連携事新たな取り組みについて 〜山野貝塚学習プログラム〜

提案理由

郷土博物館における博学連携事業については、学習指導要領に基づいた小学3年生、小学6年生の学習プログラムを作り上げ、『そではくの使い方』を発行するなどして実践してきた。

また、体験学習の実施にあたっては、市民学芸員の協力を得て、市内外の受け 入れを実施してきた。最近にいたっては市外からの要望が多くなってきており、 近隣では類のないプログラムによる体験として評価されつつある。

このように、そではくと学校との博学連携を推進してきたが、大きな課題としてあげられるのが、中学校との連携についてである。『そではくの使い方』には中学校の実践例も示してあるが、近年ではほとんど活用されていない。また、教職員に博学連携に対する意識も薄れている可能性がある。

そこで、郷土博物館では、地域資料、特に国史跡山野貝塚に特化した学習プログラムを作成し、郷土の誇りである国史跡山野貝塚の理解を深めてもらうとともに、中学校との連携を深めようと取り組み始めたところである。

今回は、その新たな取り組みについて、提案しようとするものである。